

腰痛外来における高齢者腹部大動脈 石灰化の検討

—腹部大動脈瘤の潜在的合併について—

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：腹部大動脈石灰化，腹部大動脈瘤，腸骨動脈瘤

要 旨

今回、腰痛を主訴として当院へ来院した65歳以上の高齢者において腹部大動脈石灰化症例について石灰化最大径，腹部大動脈の拡張程度，腹部大動脈瘤，腸骨動脈瘤の合併頻度を検討した。

2005年1月から2014年12月までの約10年間に腰痛症にて当院へ来院した65歳以上の症例のうち腰椎単純X線を撮影した症例は1986例（男性：769例，女性：1217例）であり，その中でも腹部大動脈石灰化を認めた症例は258例（男性：111例，女性：147例）であった。258症例中腹部大動脈最大径は16mm—88mmまでに分布し，20mm以下：18例，20mm—25mm：138例，25mm—30mm：45例，30mm—35mm：25例，35mm—40mm：11例であった。特に腹部大動脈の手術適応となる40mm以上の症例は21症例において認めた。X線上における石灰化性状は腹部大動脈壁線状石灰化例24例（24/258：9.0%），腹部大動脈脈瀰漫性石灰化例38例（38/258：15.0%），腹部大動脈点状，局所性石灰化例196例（196/258：76.0%）であった。腹部大動脈石灰化は脳心血管系の罹患率の危険因子でもあることから，腹部大動脈瘤も含め腰椎などでX線を撮影する機会があれば石灰化の有無につき注意が必要であると考えられた。

はじめに

加齢とともに骨粗鬆症と動脈硬化，肥満は増加する傾向にあり，これら疾患は一見あまり関係な

いようにみえるが，実は密接な関係があるとされている。国内では折茂ら¹⁾が先駆的にX線で評価した骨粗鬆症スコアと動脈石灰化が相関する事を示し，骨粗鬆症は耐糖能や高血圧症とは独立した虚血性心疾患や大動脈石灰化の危険因子であることを報告している。本邦においてはもはや食生活の欧米化，超高齢化社会に伴い高齢者における冠

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1